

令和2年度の受賞者について

「みやぎ食育大賞」 丸森町立館矢間小学校

丸森町立館矢間小学校では、平成22年度から、児童の食に対する意識を高めるために、食事のもつ意味や意義を理解し、生きるための基盤として捉えさせる学習を、家庭科や総合的な学習の時間、生活科、自立活動と食育を関連づけ、縦割りグループや地域の方との食を通じた交流を進めてきました。

縦割りグループで、サツマイモ栽培に取り組んだり、総合学習の時間に、地域の方々や食生活改善推進員等の協力を得て、館矢間の特産物であるヤーコンについて調べ、栽培から調理まで行いました。

全学年を通して栽培活動に取り組んだことで、児童の「食」についての関心が高まり、家庭で料理の手伝いをする児童もいました。

また、地域の方と協力することで、児童は自分の地域に目を向けるようになるなど、地域との関わりを深める食育活動となっています。



「みやぎ食育奨励賞」 登米市食生活改善推進員協議会

登米市事業の「すこやかキッズ教室」や「こどもまつり」に協力し、子どもや親世代、祖父母世代に楽しみながら食を通じた健康づくりについて考えてもらうきっかけづくりをしています。平成31年度のこどもまつりでは、減塩と野菜摂取の啓発をテーマにクイズや野菜をたくさん使った適塩スープの試食等を行いました。

また、平成28年度より、登米市の「元気とめ！健康づくり宣言」の1つである“適塩！プラス野菜あと一皿”を推進するため、季節の野菜を活用したレシピを年に3〜4回作成し、市内店舗で健康づくりに関する資料と併せて配布しています。登米市の健康課題について周知する契機となり、市民一人一人の取り組みを支える健康なまちづくりの推進につながっています。



「みやぎ食育奨励賞」 大沼 光子 氏

学校栄養士として、児童に対する栄養指導や食育プログラムの実践を通して「食」の重要性を発信し続けています。給食メニューを生かした継続的な食育指導や地元の野菜農家と連携し、野菜や地元でとれる食材の大切さを伝えることで、児童の食材や食文化に関する関心を高めています。

6年生の総合学習の時間には、ブルーベリー収穫体験を行い、翌日の給食ではそれを生かしたブルーベリーごはんを提供しました。児童が実際に収穫に関わった食材を直接的に活用することで、全校的に食材への関心が高まりました。

さらに、学校での活動のほか、PTA行事、学校評議員会等において、学校給食の概要について試食を交えた説明を行うなど、地域住民への情報発信にも力を入れ、精力的に活動しています。

